

第2次 飯塚市環境基本計画

(地球温暖化対策実行計画【区域施策編】含む)

第2次 わたしたちの環境プラン

概要版

人+自然+やさしいまち=いいづか



～目次～

- ◆環境基本計画の体系……………P1
- ◆4つの重点プロジェクト……………P3
- ◆いいづか環境会議会員の募集……P7

※第2次飯塚市環境基本計画（本編）は、市ホームページや図書館でご覧いただけます

◆環境基本計画の体系

今回の計画（平成24年3月策定）づくりにあたり、前計画の実行状況の点検や、アンケート調査、市民公募によるワークショップなどを実施しました。これらの結果を踏まえ、将来像を実現するための4つの基本目標を掲げ、基本目標ごとに必要な取組を体系化しています。

また、これらの取組の中で、市民へのアピール度が高く、かつもっとも効果的と思われる取組を、4つの基本目標ごとにひとつずつ「重点プロジェクト」として設定しています。

目指すべき
将来像

人＋自然＋やさしいまち＝いいづか

前計画(平成14年度～平成23年度)を引き継ぎ、環境にやさしいまちづくりを進めることにより、人と自然との共生を実現するための将来像です。

基本目標Ⅰ 【循環型社会の形成】

限りある資源をしっかりと循環させる、
ごみゼロの社会づくり

市民一人ひとりが毎日直面するごみ問題。
これを解決するには、まずはリサイクルの徹底やごみをできるだけ出さない日常生活をこころがけること。そして自分の暮らす地域からポイ捨てされるごみを無くす運動にみんなが参加すること。
このような取組が必要です。
そこで「循環」の取組を基本目標の<Ⅰ>としています。

【取組】ごみ減量化、分別の徹底

↓
ごみ出しルールの徹底、
リサイクル率の向上

↓
【重点プロジェクト】
ごみゼロ推進プロジェクト

基本目標Ⅱ 【自然との共生】

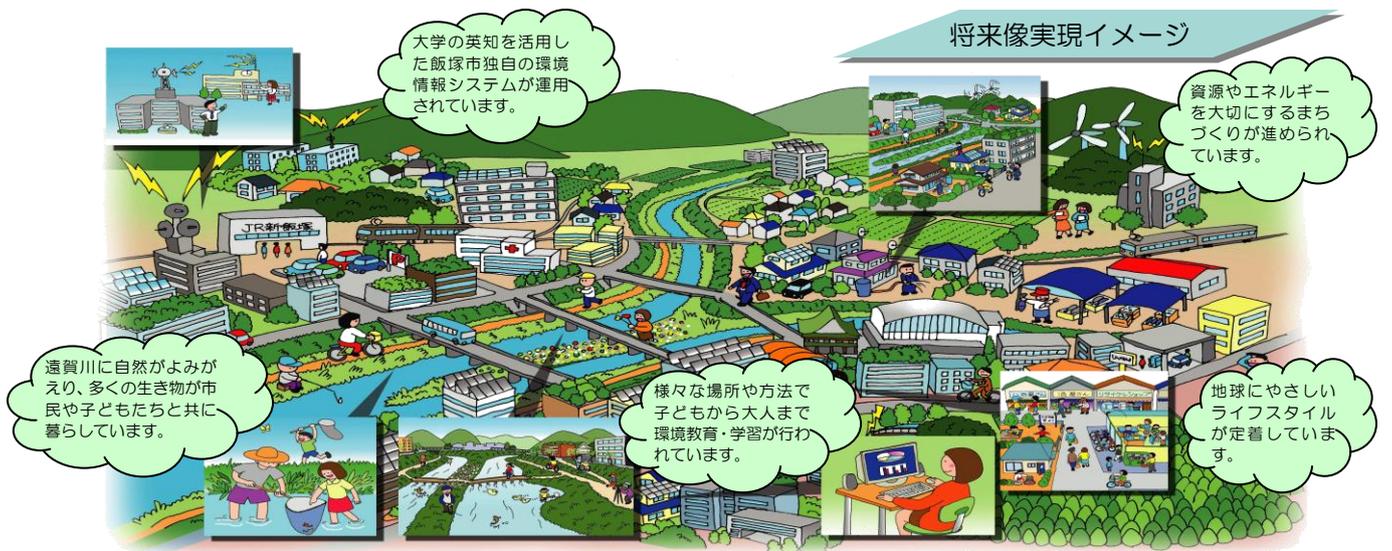
命の源である森や水を守り、自然とともに
暮らす、うるおいのある環境づくり

平成15年の集中豪雨をきっかけに、市内の河川整備が進められ、水質の改善も徐々に進んでいます。
遠賀川の水を守り、遠賀川とともに生きる。そんな暮らしを市民の間に根付かせる取組を進めなくてはなりません。
また近年、里山の荒廃や耕作放棄地の増加が問題となっています。
きれいな水を守るために水源である山や森、農林業のことを考える必要があります。
そこで、自然とともに生きる「共生」の取組を基本目標の<Ⅱ>としています。

【取組】河川等水質の改善、森や川の保全

↓
下水道普及率の向上、里地・里山の保全
自然とふれあうための場所の整備

↓
【重点プロジェクト】
みんなできれいな川を
つくろうプロジェクト



基本目標Ⅲ 【低炭素社会の構築】

次世代に誇って継ぐことのできる、自然エネルギーを無駄なく使う低炭素の環境づくり

地球温暖化がもたらす影響は、異常気象や海面上昇などの自然現象のみならず、農林業や健康など、私たちの身近な暮らしにも及びます。そしてその原因は、温室効果ガスを出し続けている私たちの暮らしそのものにあると考えられています。温室効果ガスをできるだけ出さない暮らしへの転換。それはもはや、全人類の課題です。そこで「低炭素社会の構築」に向けた取組を基本目標の<Ⅲ>としています。

【取組】地球温暖化防止の取組の実践

↓
省エネ行動の普及・啓発、バイオマスエネルギー利用、省エネナビ等のツールの導入など

【重点プロジェクト】
地球温暖化防止推進プロジェクト

基本目標Ⅳ 【人の環づくりと活動実践】

豊かな資源（自然・人材等）や地域コミュニティを活かした人づくり

ごみを出さない暮らし、自然とともに生きる暮らし、温室効果ガスをできるだけ出さない暮らし、そんな暮らしを市民一人ひとりが実現するためには、環境について学ぶ機会が多くあること、誰もが参加できる環境を守る取組が市内のあちこちで行われていること、このようなことが大切です。そこで「参加・協働」の取組を基本目標の<Ⅳ>としています。

【取組】環境教育・学習の充実

市民の環境意識の向上

↓
市の特性を活かした環境教育・学習の実践、自治会や公民館の活用による地域コミュニティの活性化、マナー・モラルの意識改革

【重点プロジェクト】
環境を守りつくる
実践活動参画プロジェクト

◆4つの重点プロジェクト

4つの基本目標を達成するための、4つの重点プロジェクトについてあらましを記載しています。市民・環境団体・事業者・学校・行政が協力して、重点プロジェクトを着実に実行していきます。



基本目標Ⅰ【循環型社会の形成】 ◆ごみゼロ推進プロジェクト

具体的取組

全市民一斉清掃 キャンペーンの実施

評価指標（10年後の目標値）

- ・1人1日あたりのごみ排出量を、2021年までに904g以下にする。
(現状：1,004g/人・日、2010年度現在)

具体的行動と目指すべき方向性

全市民一斉清掃キャンペーンを展開し、より多くの市民に参加して頂きます。実施にあたっては、飯塚市はもちろんのこと、環境団体や事業者の方々の協力が不可欠です。

自分の肌で感じて、取り組むことで、ごみ排出量の減量、市民モラルの向上、地域コミュニティの活性化を推進します。

プロジェクトの展開

市民

- 全市民一斉清掃キャンペーンに、積極的に参加します。
- 自治会単位で、無理なくできることから始めます。



事業者

- 全市民一斉清掃キャンペーンに積極的に参加します。
- 事業者として、キャンペーンのバックアップに努めます。



環境団体

- 現在の清掃活動に、さらなる市民参加を促します。
- 活動内容や実態を飯塚市へ報告し、情報提供や市民への周知を依頼します。



学校

- 学校を通じて、キャンペーンの周知を行います。
- 通学路や、学校周辺の清掃を実施します。



行政のバックアップ施策

全市民一斉清掃キャンペーンの設定と計画
市民・事業者等への強い働きかけ
参加事業者への参加認定証の発行
無償での清掃ごみの回収と焼却場への受け入れ
市職員の各地域における積極的な参加

- 2012年度中に実施
- キャンペーン着手後直ちに実施
- キャンペーン着手後直ちに実施
- キャンペーン着手後直ちに実施
- キャンペーン着手後直ちに実施

基本目標Ⅱ【自然との共生】

◆みんなできれいな川をつくろうプロジェクト



具体的取組

廃食用油の 回収運動の拡大

評価指標（10年後の目標値）

- ・廃食用油の年間回収量を、48,000L 以上にする。
（現状：4,800L、2010年度現在）

具体的行動と目指すべき方向性

河川の水質をきれいにする目的で始めた、廃食用油の回収運動です。ここ数年で、油の回収量は3倍程度に増加しており、今後も市民のみなさんの協力により、回収量増加が十分に見込めます。河川水質も、徐々にきれいになってきています。

回収した油はBDF(バイオディーゼル燃料)として精製され、自動車の燃料として利用します。限りある資源がしっかりと循環する、飯塚のまちづくりを推進します。

プロジェクトの展開

市民

- 家庭で発生する廃食用油を全量回収し、排水として流さないようにします。



事業者

- BDF車やBDFボイラーなどのBDF利用設備を積極的に導入します。



環境団体

- これまでどおり市と協力し、廃食用油の回収に力をいれます。
- 協力団体を増やします。



学校

- BDFボイラーなどのBDF利用設備を導入し、資源循環型社会の教育に活用します。



行政のバックアップ施策

回収場所のさらなる拡充と回収方法の簡素化
市内の廃食用油処理施設見学会の開催
公用車への利用拡充・実績や技術の周辺都市への発信
公共施設などへのBDF利用設備を導入

- 2012年中に実施
- 2012年中に実施
- 2016年までに実施
- 2016年までに実施

基本目標Ⅲ【低炭素社会の構築】

◆地球温暖化防止推進プロジェクト



具体的取組

再生可能エネルギーの 利用や省エネの推進

評価指標（10年後の目標値）

- ・公共施設、学校等への太陽光発電システムの設置を、2021年までに30件以上にする。（現状：7件、2010年度現在）
- ・温室効果ガス排出量を、2030年までに1990年度の水準（727千t-CO₂/年）まで減らす。（現状：933千t-CO₂/年、2008年度現在）

具体的行動と目指すべき方向性

地球温暖化対策として進められてきた再生可能エネルギーの利用や省エネルギー行動への関心は、東日本大震災を契機として、これまで以上に社会全体で高まっています。コツコツと取り組める身近な省エネルギー行動の普及に取り組むとともに、再生可能エネルギーの利用を促進し、CO₂を出さないまちづくりを進めます。

プロジェクトの展開

市民



- 補助制度を活用し、再生可能エネルギー利用や高効率機器を導入します。
- 環境家計簿、スマートメーター・省エネナビ等を利用しながら、省エネを進めます。
- 身近なところから取り組める省エネ行動に努めます。など

事業者



- ビルや大型店舗では、太陽光発電設備を導入します。
- 取組によるエネルギーの削減効果を、市民に公表します。
- エコアクション21の認証取得に努めます。など

学校



- 太陽光発電設備を導入します。
- 地球温暖化に関する環境教育を、継続的に行います。
- エネルギーの削減効果を見える化して、効果量を学校間で共有し、競います。

行政のバックアップ施策

公共施設、学校等への太陽光発電システム導入計画策定と着手
 高効率給湯器などの補助制度を新設
 省エネに関する情報や知恵を、市報で定期的に発信
 飯塚市の率先行動を継続し、効果を公表
 事業者のエコアクション21普及に向け情報発信

→継続
 →2016年までに実施
 →2013年までに実施
 →継続
 →2013年までに実施

基本目標Ⅳ【人の環づくりと活動実践】

◆環境を守りつくる実践活動参画プロジェクト



具体的取組

環境基本計画を推進する 人材の育成と地域における 環境保全活動の推進

評価指標（10年後の目標値）

- ・環境アドバイザー派遣件数を、年間 50 件以上にする。
（現状：1 件、2010 年度現在）
- ・エコ工場の来館者数を、年間 8,000 人以上にする。
（現状：4,271 人/年、2010 年度現在）

具体的行動と目指すべき方向性

環境を改善していくためには、人々が協力し合い、ともに清掃活動をしたり、知識を教え合ったりすることが重要です。そこで、地域コミュニティの活性化や環境教育・学習が大切です。飯塚市が持つ人材や自然などの資源、学園都市、情報産業都市といった特徴を活かした、多くの人が気軽に参加できる様々な活動や環境教育・学習を推進していきます。

プロジェクトの展開

- 環境問題について学び、環境保全の取組を実践します。
- 自治会単位で、清掃活動などの環境保全活動を計画し、実施します。
- 効果が上がった取組は市へ報告し、他地域へ広めます。など

市民



事業者

- 関係する自治会の取組に、積極的に参加します。
- 事業者として、自治会活動のバックアップに努めます。など



- 活動を行う地区の自治会と協力し、多くの市民の参加を促します。
- 環境に関する情報を、活動を通じて市民に広く伝えていきます。

環境団体



学校

- 関係自治会と連携し、学校周囲の清掃活動などを、地域の方々とともにを行います。
- 地域に精通する方を講師として招き、環境学習を行います。など



行政のバックアップ施策

環境アドバイザーなど人材登録の見直し・強化
大学や企業と連携した環境教育の実施
各地区への出前講座・環境学習会の開催
各自治会の環境に関する活動情報の広報
エコ工場の利便性向上

- 継続
- 2012 年に着手
- 2013 年までに実施
- 2013 年までに実施
- 2016 年までに実施

◆いづか環境会議会員の募集

このたび、「第2次飯塚市環境基本計画」に基づき、本計画に掲げられた4つの重点プロジェクトを中心とした取組を推進していくため、一緒に取り組んでいただける「いづか環境会議」の会員を募集しています。

「いづか環境会議」は、市民、民間団体、事業所、学校、市が協働し、飯塚市の良好な環境の保全と創造に関する施策・事業を推進することを目的とする組織です。

【入会資格】

「いづか環境会議」の趣旨に賛同し、地域のより良い環境づくりに取り組む意欲のある市民（市内在住、在勤、在学の18歳以上の方）、団体、事業所、学校。

【会員募集の分野】

いづか環境会議には、4つの重点プロジェクトごとに以下の部会を設置します。入会申込みの際に、希望される部会または関心のある部会を記入してください。（複数選択可）

部会(仮称)	重点プロジェクト	具体的取組
ごみゼロ部会	ごみゼロ推進プロジェクト	全市民一斉清掃キャンペーンの実施
きれいな川部会	みんなできれいな川をつくろうプロジェクト	廃食用油の回収運動の拡大
温暖化防止部会	地球温暖化防止推進プロジェクト	再生可能エネルギーの利用や省エネの推進
環境教育部会	環境を守りつくる実践活動参画プロジェクト	環境基本計画を推進する人材の育成と地域における環境保全活動の推進

【入会方法】

入会申込書に所定の事項を記載のうえ、事務局（市役所環境整備課）へ提出してください。（郵送・FAX・電子メール）

入会申込書は、事務局（市役所環境整備課）で受けとられるか、市ホームページからダウンロードすることもできます。



第2次飯塚市環境基本計画
(地球温暖化対策実行計画【区域施策編】含む)
概要版

平成24年10月

発行 飯塚市 市民環境部 環境整備課

〒820-8501 福岡県飯塚市新立岩5番5号

電話 0948-22-5500/FAX 0948-21-2066

URL <http://www.city.iizuka.lg.jp/>

E-mail : k-seibi@city.iizuka.lg.jp